

籠耳

卷之五

305  
19



始



305  
119

繪入  
籠耳

争つて  
大平家  
世活  
五



秀耳卷之五目錄

一 思子出世

わだむらうけの海納高松

二 錐脱囊

かきあふふし子孫一騎

三 齋食観音

いさらのうらふ寸年

四 作佛不入眼

信のさめぬ作去る香

五 乞食在後

かの月とあけの月の利





孫耳巻之五

一 恵子出巻

武列中よりわたり... 女のふひ人  
 の男子とて... 親母よく先ほ  
 いふ名ね... 親母よく先ほ  
 男子とて... 親母よく先ほ  
 死ぬわ... 親母よく先ほ  
 中く... 親母よく先ほ  
 かひ... 親母よく先ほ  
 これ... 親母よく先ほ

六 有難

七 翁内財

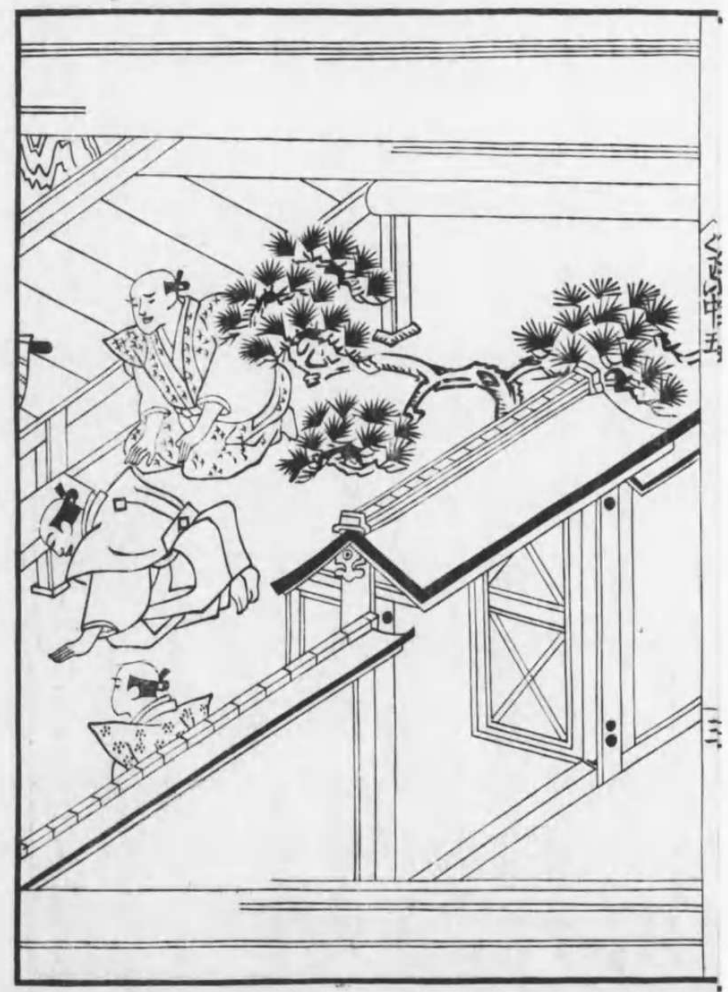
八 折檻打角

九 下戸化物

十 一粒新悟

魚色... 翁内財... 折檻打角... 下戸化物... 一粒新悟...

















くらんてんがいあてしんの人とねえてまれの時やせしれく  
 けりた大ぶれぶの女のたうことまけあめりうまのこのこ  
 まえうねいへんを良あつてうことあうとせえとせにわん  
 びんは跨たなまわらえんははらばらふらふらとてはんと  
 いととあへられし念内材の家徳を也財中と徳とせら  
 えとせわごせしいてせあめりまうせゆらのゆんやせ  
 がまらりお動とせいせんくせでせおとせん

八折檻折南

とんと漢の代々米粟とつとつわり成帝たつてま  
 秋のかまれわりと秋法高とつとつ成帝の作道とまりん  
 成帝のせしうん米粟とつとつ法高とつとつとつとつ  
 回しけと成帝いりめい米粟とつとつとつとつとつとつとつ





ふはたれりあつてのこゝろに  
わがもももたしき一ぶらり  
孔かも怪力丸針と強だとの  
さうふはた一名川舟舟  
軍とあれり此からのつ  
ある女も人せじくた  
そまらるるるるるるる  
そととつあもまごた  
いん家とつたつたつた  
まはし給あつたつた  
一まはし給あつたつた

よひをれつてひらり  
くぬがここの林か  
のどけあえわり一  
あつて髪とまゆと  
さしとまゆと髪と  
に髪がわり一

⑩ 粒石伝

丹波乃條村の金州まこ一  
のしら雀おの栗の  
あつてららららら  
稀くいんちんちん







且い若さや昔花まのくくた人々をどういふる  
 とりこれとていふまじふ三三日もたてぬしつものあり  
 てこの女けりなやねまあるん〜けつこのいふいふ  
 ともあつて〜そのつとをばりけりしとぬえて海  
 とつていままゝのあつて捕むといふのとこ〜り  
 ろりけりまゝいざ〜し蛇蜂蜈蚣蟻蟻蟻蟻  
 て目とぬ〜といふ〜りけりしとぬえて海  
 あまの〜が〜りけりしとぬえて海  
 とほ〜りけりしとぬえて海  
 女と〜りけりしとぬえて海  
 とぬえ〜りけりしとぬえて海  
 人と〜りけりしとぬえて海

このまゝ一柱が万倍のまゝあり〜りけりしとぬえて海  
 一柱が万倍のまゝあり〜りけりしとぬえて海  
 らあ〜りけりしとぬえて海  
 なるい佛家ま〜りけりしとぬえて海  
 一物の茶と〜りけりしとぬえて海

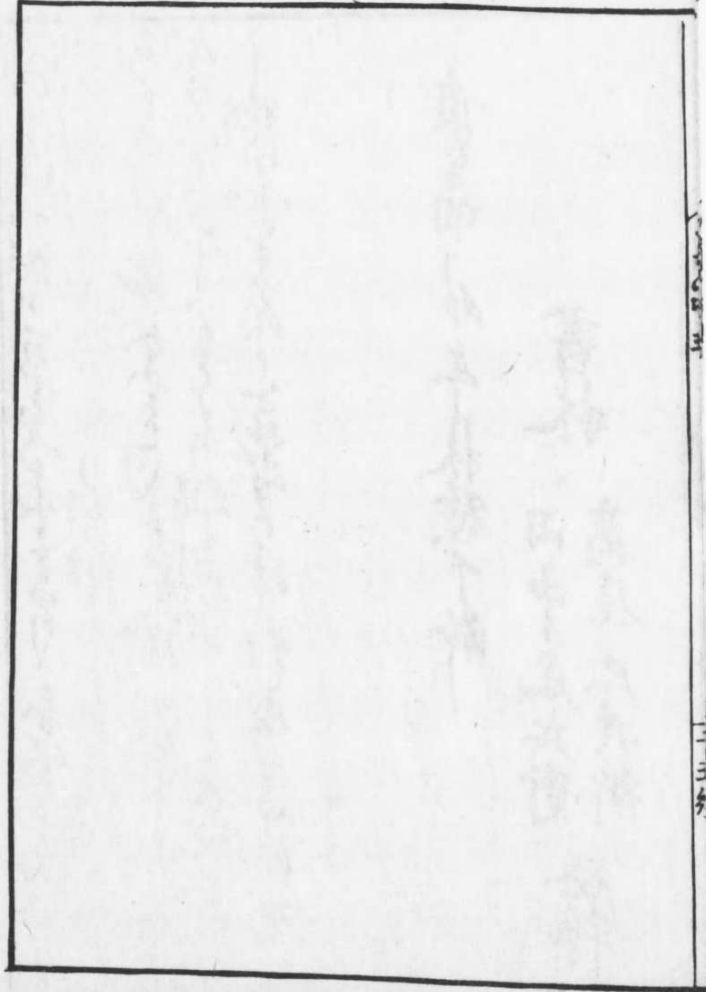
貞享四丁卯年林鍾下澣

書林 田中庄兵衛 全梓  
 萬屋庄兵衛

117  
 118

305  
119

印行三百部之内  
第 一 號



昭和十四年七月廿五日印刷  
昭和十四年七月廿八日發行

——新 生 期——  
第 九 回

編輯者 山田清之介  
印刷者 佐藤謙之介  
製本者 阿部麟五郎  
發行所 池上幸二郎  
東京市牛込區富久町八十四番地

品 實 非  
會 讀 書 籍

米 山 堂  
東京市牛込區富久町八十四番地

終